

## ニーズを伝えよう！「パソコンノートテイク」原文

講義名：哲学

テーマ：福祉国家の優生思想

講義時間：約2分30秒

先生／えー、私たちがですね、陥りやすいのはですね、こういう考え方なんですね。優生思想っていうのは、私たちの考え方とは関係なくて、ナチス・ヒットラーがやったことではないかっていうふうに、よく考えられてしまいます。ナチス・ヒットラーはですね、やったこと、ま、これからお話をしますけれども、えー、いろんなことをやるんですけども、その中で、その一、ナチス＝優生思想、っていうふうにですね、我々は短絡的に考えてしまって、自分とは無縁だというふうに考えている。しかし、よく考えてみるとですね、ある意味では、このナチズムっていうのは、この近代的な思想の中で、起こるべくして起こったというふうに考えてもいいものですね。つまり、近代的な、この、人間観の中に、いわばナチスをこう、まあ、引き起こしてくるような、そういうその考え方が実は、えー、ある、ということですね。で、そこに、えー、まず書いてありますけれども、なぜそういうふうに考えるかというとですね、えー、そこに書いてあるようにですね、ナチズム＝優生思想なのではないというので、いくつか挙げてますが、1つは、実は優生思想っていうのは、20世紀から1970年代の頃まで、いわゆる先進国では疑問視されることがなかった、ということですね。疑われることがなかった。悪質な遺伝子を持っている子供を産ませないようにして、そして、えー、良質な遺伝子を残していくのは当たり前じゃないか。それは人類の進歩にとってプラスじゃないか、っていうふうに考える考え方がですね、えー、ナチスのドイツだけではなくて、今日の、私たちの日本の中でも、1970年代ぐらいまでは当たり前と考えられていた。っていうことがまず1つですね。